

復興まちづくり若者アンケート 集計結果

平成 30 年 3 月

福島県双葉町

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査概要	1
(2) 調査結果の見方	1
2. 調査結果	2
(1) 回答者の属性と現状	2
1－1. 性別	2
1－2. 年齢（平成30年4月1日現在の年齢でお答えください。）	2
1－3. 現在のあなたの職業（就業形態）を教えてください。	3
1－4. 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。	4
1－5. あなたが現在避難されている地域を教えてください。	4
1－5－1. その避難先の市区町村名を教えてください。	5
1－6. あなたの関心がある情報は何ですか。	6
(2) 将来の意向	7
2－1. 双葉町の避難指示が解除された後の町への帰還について、現時点でお考えですか。	7
2－2. 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。	8
2－3. 帰還する場合、どのような支援や情報が特に必要と考えますか。（3つまで）	9
2－4. 現時点で戻らないと決めている又はまだ判断がつかない理由はどのようなことですか。（いくつでも）	10
2－5. 帰還しない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。（いくつでも）	12
2－6. 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。	12
2－7. どのような形でつながりを保ちたいと思いますか。（3つまで）	13
(3) 情報入手・コミュニケーション	14
3－1. あなたは町からの情報を主にどのような方法で入手していますか。（3つまで）	14
3－2. あなたは現在、主にどのような情報通信端末で情報を入手していますか。	15
3－3. 町からの情報発信に関してのご要望やご意見があればお書きください。	16
(4) 復興まちづくり①	17
4－1. 復興のシンボルとなるもの、また特に若年層向けのイベントについてアイデアがありましたら、自由にお書きください。（企画案、開催場所等）	17
(5) 復興まちづくり②	19
5－1. 復興まちづくり計画（町の将来）に関心はありますか。	19
5－2. 復興まちづくりに参加したいと考えますか。	19
5－3. これから双葉町はどのような「まち」になってほしいとお考えですか。	21
5－4. 町へのご要望やご意見などについてお聞かせください。	25
(6) 今後の町からの情報提供について	27
資料編	28

1. 調査の概要

(1) 調査概要

①調査対象

20～40 歳代（平成 30 年 4 月 1 日時点）の町民（2,372 名）

②調査期間

平成 30 年 2 月 7 日～2 月 22 日（16 日間）

③調査方法

はがき配布、インターネット回答

④回答者数

167 人（回収率 7.04%）

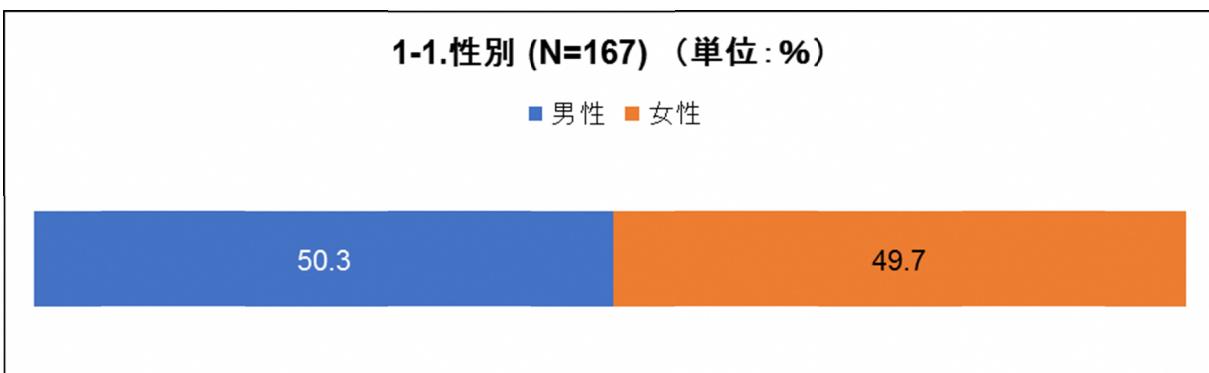
(2) 調査結果の見方

- ・「N」とは、質問に対する回答者数である。
- ・回答の構成比は百分率をあらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出しているため、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。

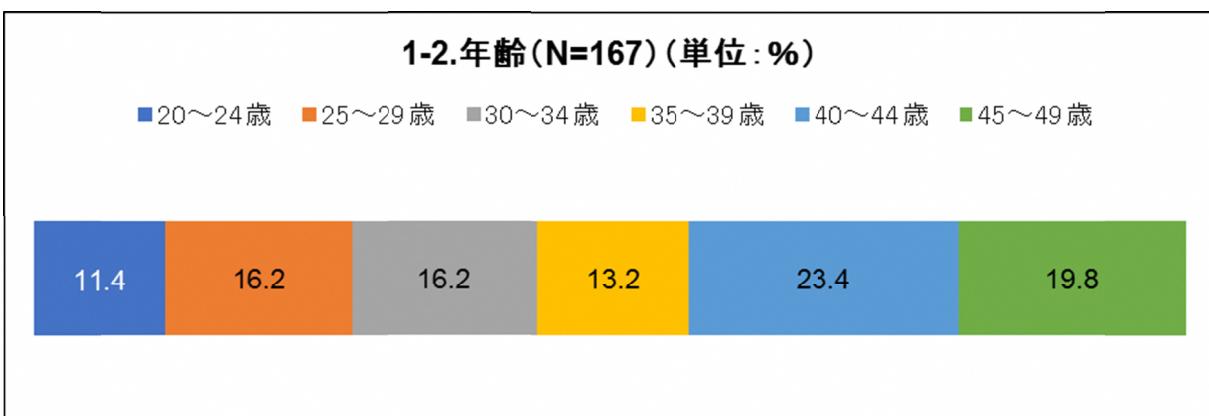
2. 調査結果

(1) 回答者の属性と現状

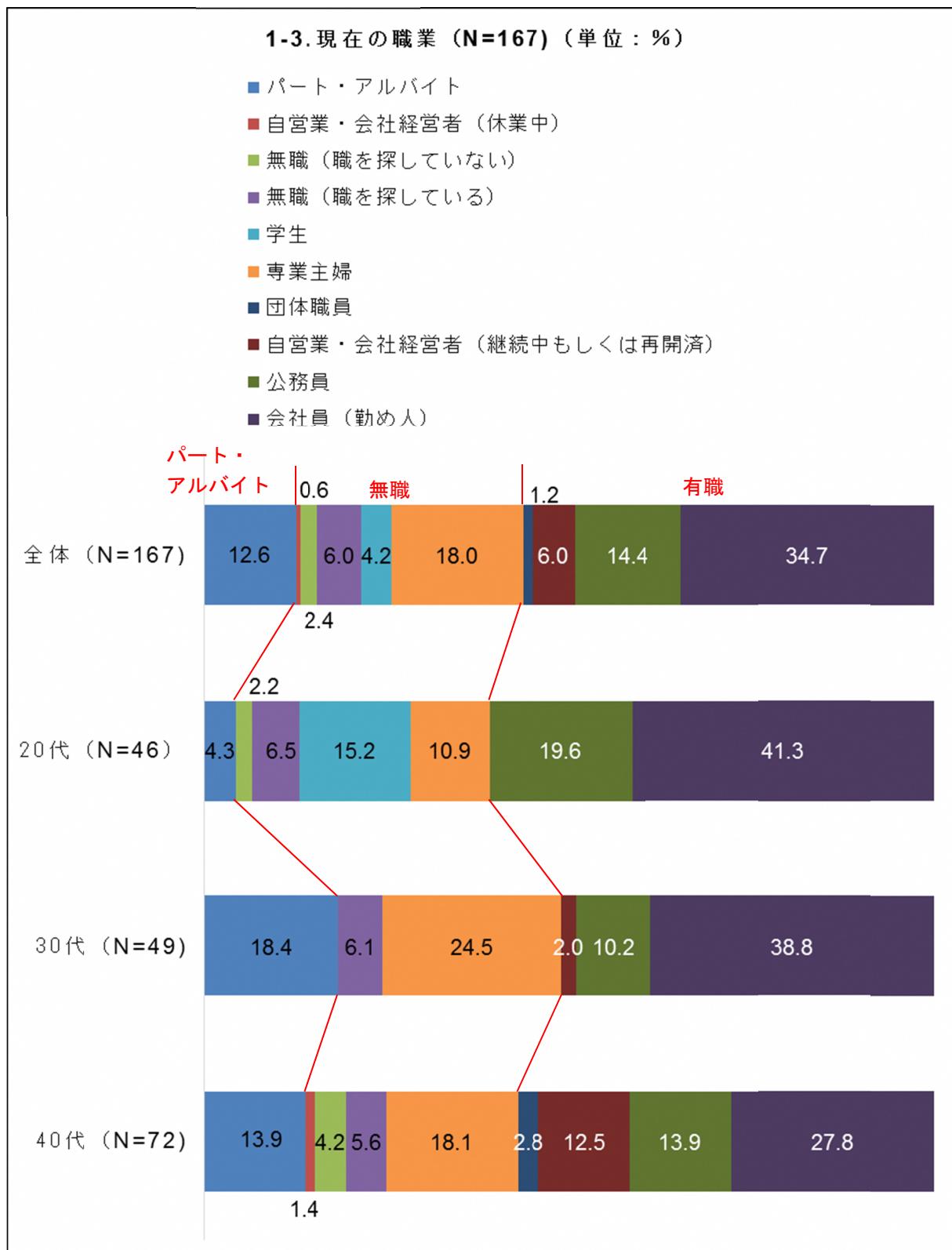
1-1. 性別



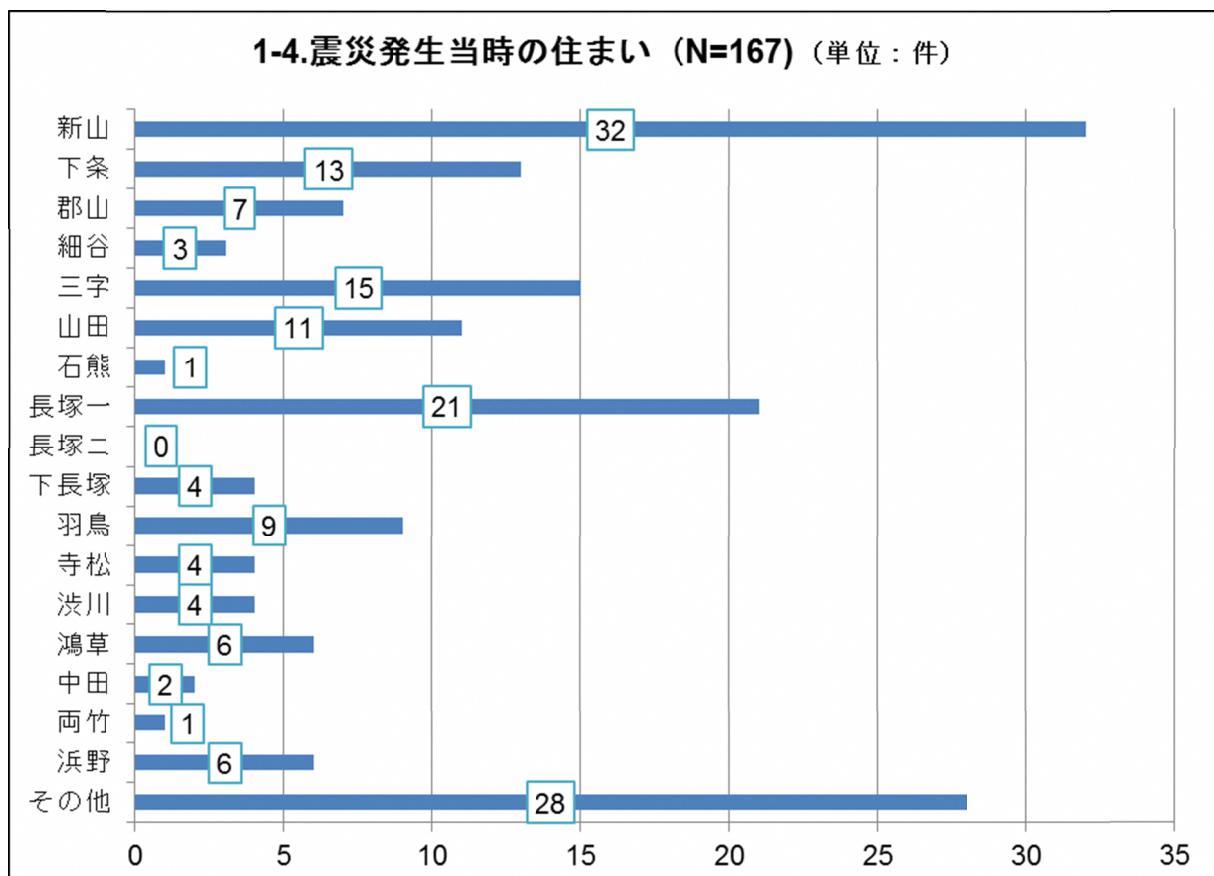
1-2. 年齢（平成 30 年 4 月 1 日現在の年齢でお答えください。）



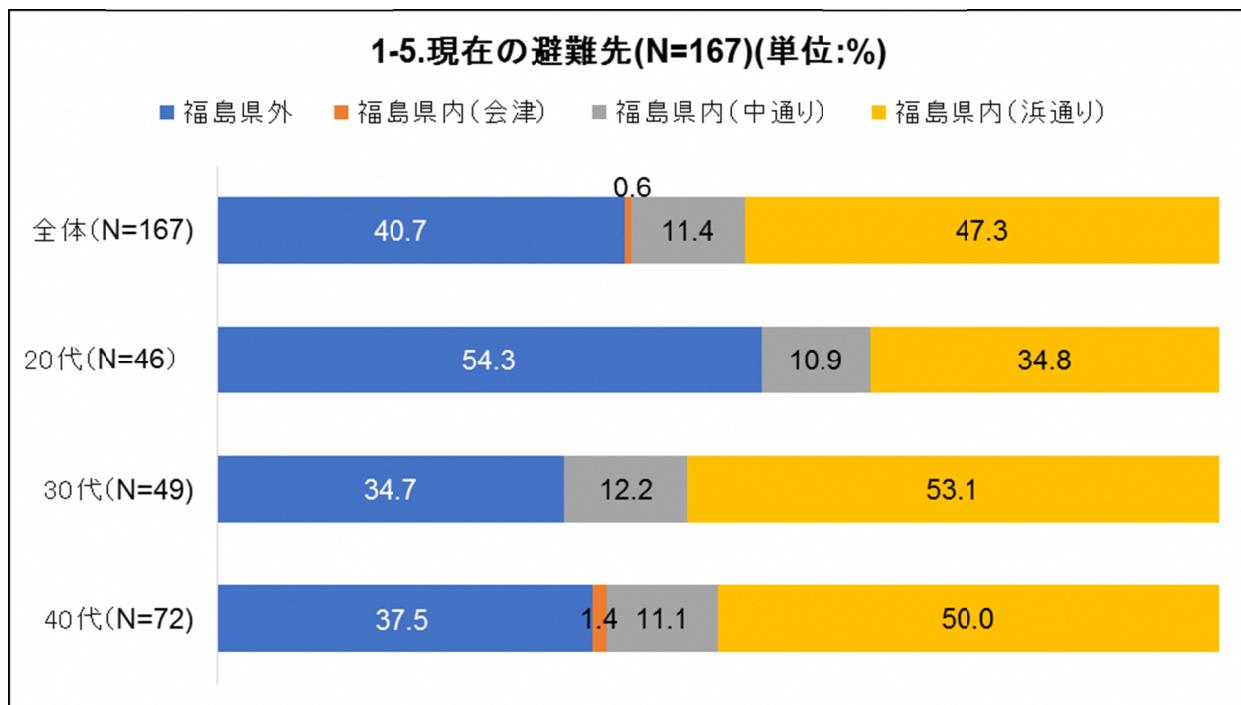
1-3. 現在のあなたの職業（就業形態）を教えてください。



1-4. 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。



1-5. あなたが現在避難されている地域を教えてください。



1-5-1. その避難先の市区町村名を教えてください。

・福島県内（合計 99）

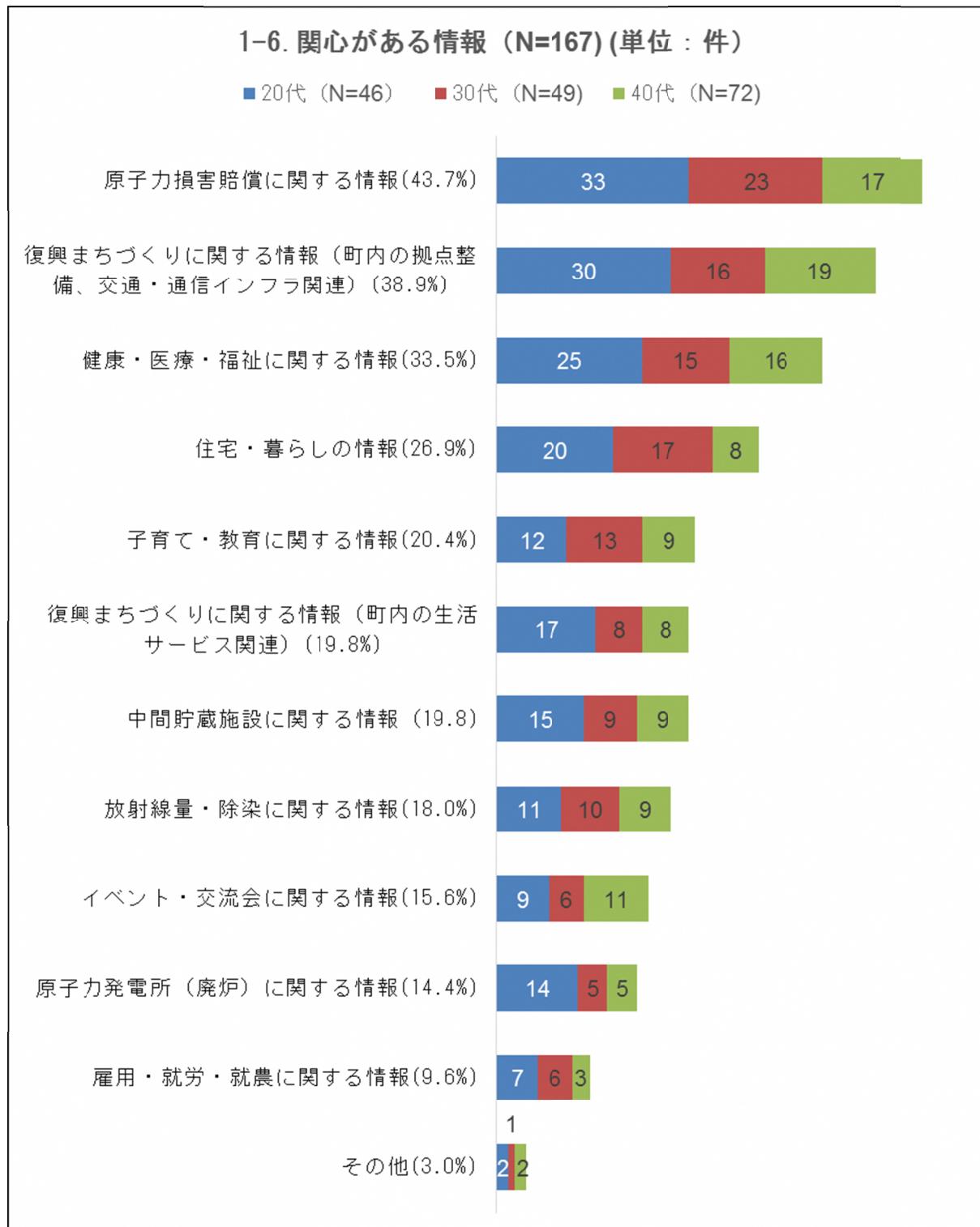
浜通り	いわき市	67	南相馬市	8	広野町	2	新地町	1	計	78
中通り	郡山市	7	福島市	4	白河市	2	棚倉町	2	田村市	1
	須賀川市	1	本宮市	1	矢吹町	1		計	19	
会津	会津若松	1	三島町	1		計	2			

・福島県外（合計 68）

埼玉県	19	茨城県	10	東京都	9	神奈川県	4	千葉県	3
栃木県	2	その他	22						

1-6. あなたの関心がある情報は何ですか。

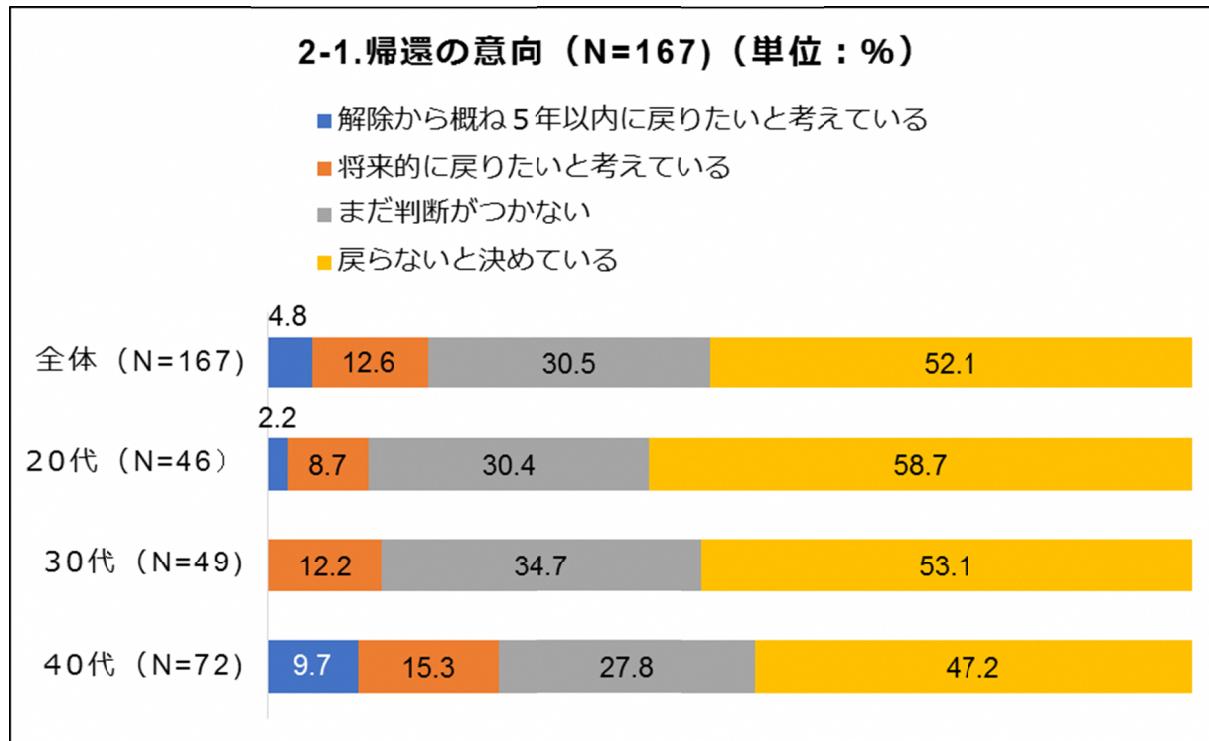
「関心がある情報」については、「原子力損害賠償関連情報」が43.7%と最も多く、次いで「復興まちづくりに関する情報（町内の拠点整備、交通・通信インフラ関連）」が38.9%、「健康・医療・福祉に関する情報」が33.5%となっている。



(2) 将来の意向

2-1. 双葉町の避難指示が解除された後の町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

双葉町への帰還意向については、「戻らないと決めている」が 52.1%で最も高く、次いで「まだ判断がつかない」が 30.5%となっている。



【帰還の意向がある人の内訳】

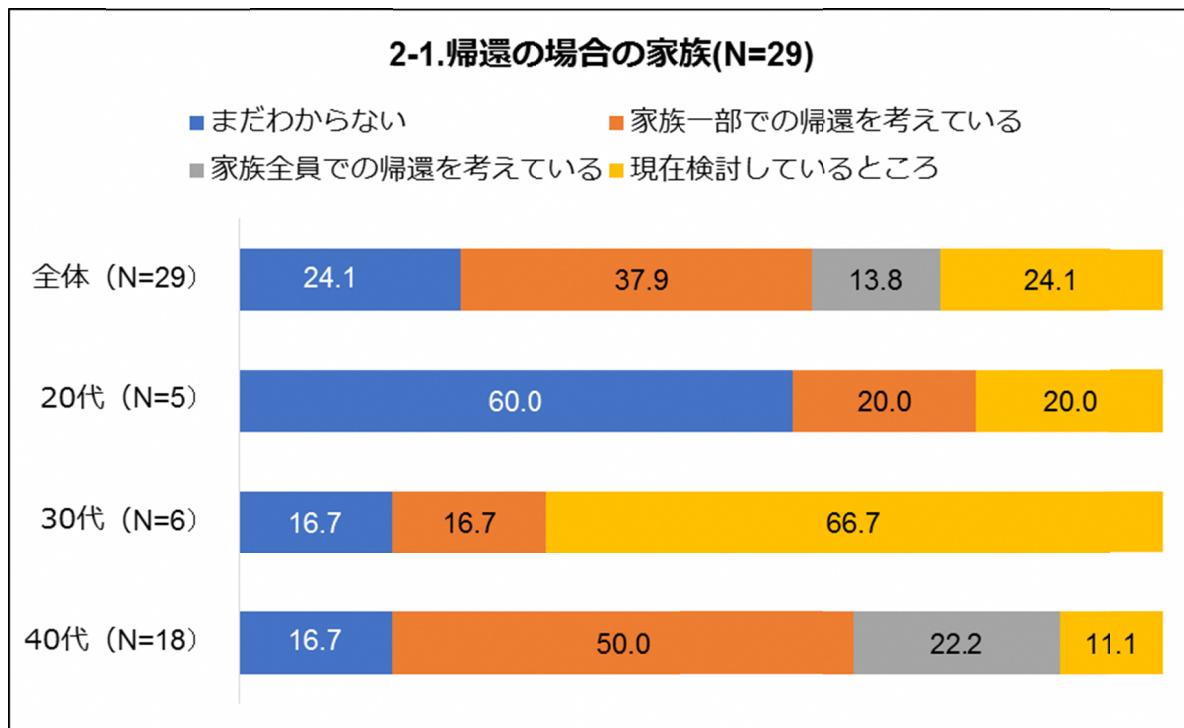
(単位 : 人)

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	合計
■ 解除から 5 年以内	男性	1	0	7	8
	女性	0	0	0	0
■ 将来的に	男性	3	4	6	13
	女性	1	2	5	8
■ 回答数に対する帰還の意向がある人の割合		10.9%	12.2%	25.0%	17.4%

2-2. 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。

※2-1で「解除から概ね5年以内に戻りたいと考えている」、「将来的に戻りたいと考えている」を選んだ人

戻る場合に家族の全員か一部かについては、「家族一部での帰還を考えている」が37.9%と最も高い割合を占めている。



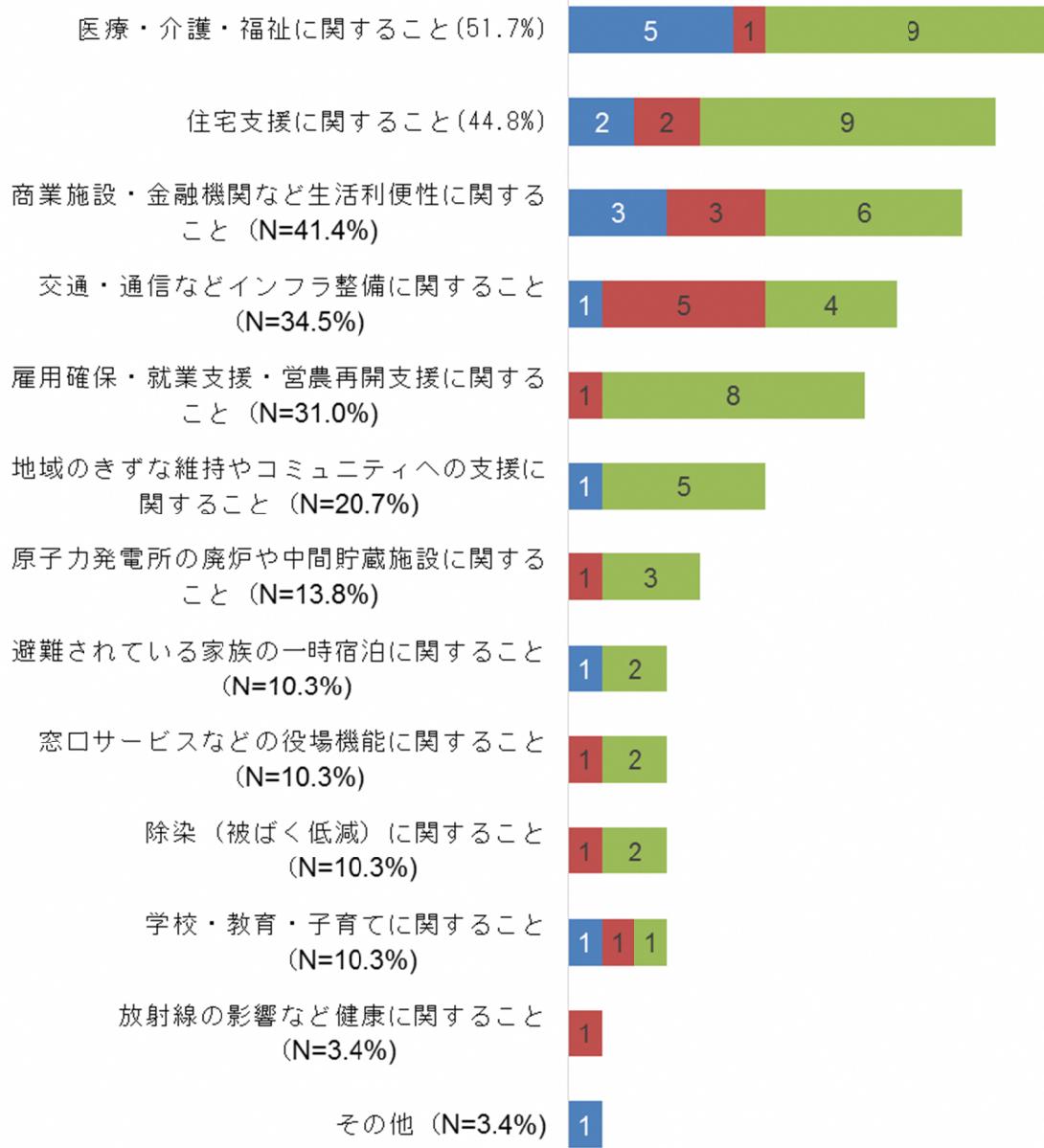
2-3. 帰還する場合、どのような支援や情報が特に必要と考えますか。(3つまで)

※2-1. で「解除から概ね5年以内に戻りたいと考えている」、「将来的に戻りたいと考えている」を選んだ人

帰還する場合に必要な情報については、最も多かった回答は「医療・介護・福祉に関するここと」で51.7%であり、次いで「住宅支援に関するここと」44.8%、「商業施設・金融機関など生活利便性に関するここと」で41.4%であった。

2-3.帰還する場合に必要な情報(N=29) (単位：件)

■ 20代 (N=5) ■ 30代 (N=6) ■ 40代 (N=18)



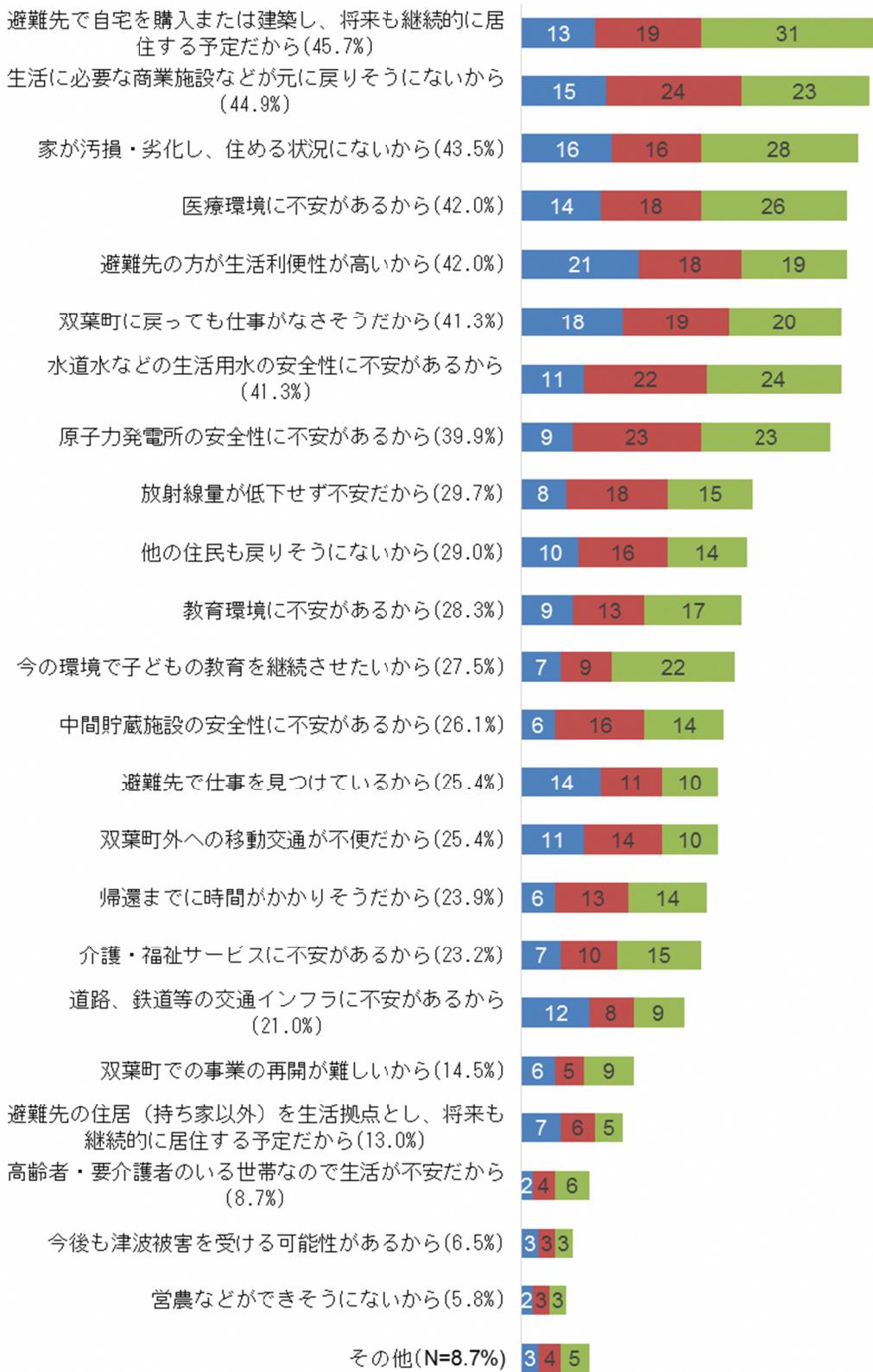
2-4. 現時点では戻らないと決めている又はまだ判断がつかない理由はどのようなことですか。(いくつでも)

※2-1. で「現在検討しているところ」、「戻らないと決めている」を選んだ人

現時点では戻らないと決めている又はまだ判断がつかない理由として最も多かった回答は、「避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから」が45.7%、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」44.9%、「家が汚損・劣化し、住める状況にないから」43.5%であった。

2-4. 戻らないと決めている・判断がつかない理由 (N=138)(単位：件)

■20代(N=41) ■30代(N=43) ■40代(N=54)



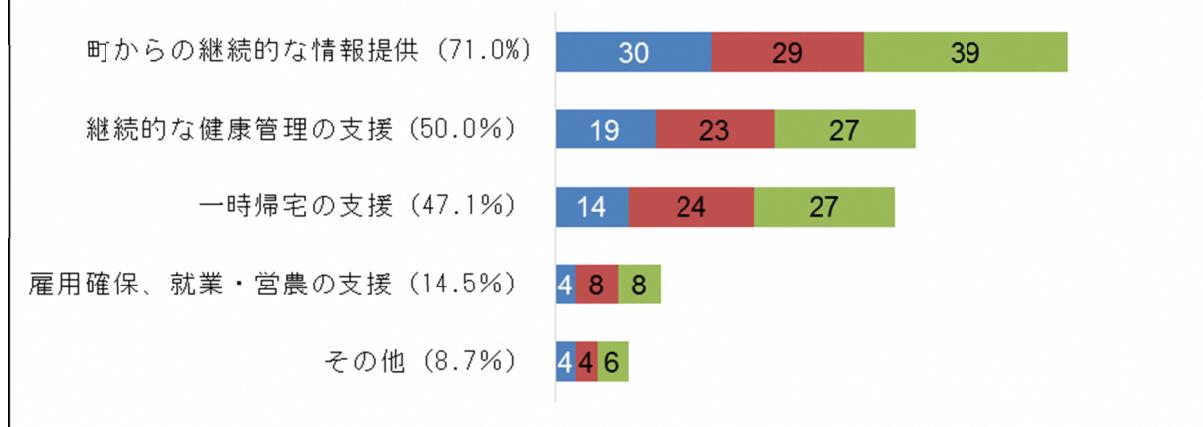
2-5. 帰還しない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(いくつでも)

※2-1. で「現在検討しているところ」、「戻らないと決めている」を選んだ人

帰還しない場合に必要な支援として最も多かった回答は、「町からの継続的な情報提供」で71.0%、次いで「継続的な健康管理の支援」で50.0%であった。

2-5.帰還しない場合に必要な支援 (N=138) (単位：件)

■20代(N=41) ■30代(N=43) ■40代(N=54)



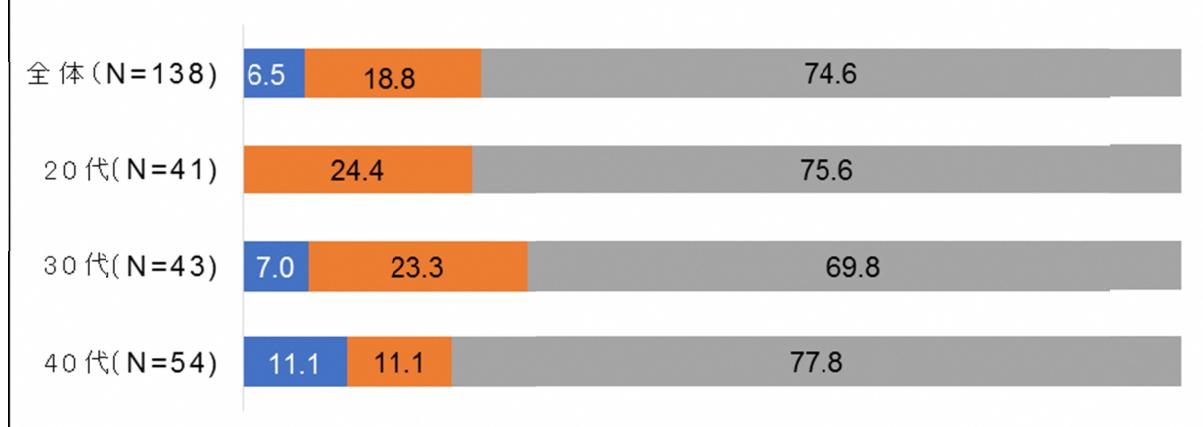
2-6. 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。

※2-1. で「現在検討しているところ」、「戻らないと決めている」を選んだ人

「双葉町とのつながりを保ちたいか」という質問に対して、最も多かった回答は「そう思う」で74.6%、次いで「そう思わない」で18.8%であった。

2-6.双葉町とのつながりを保ちたいか(N=138)(単位:%)

■その他 ■そう思わない ■そう思う



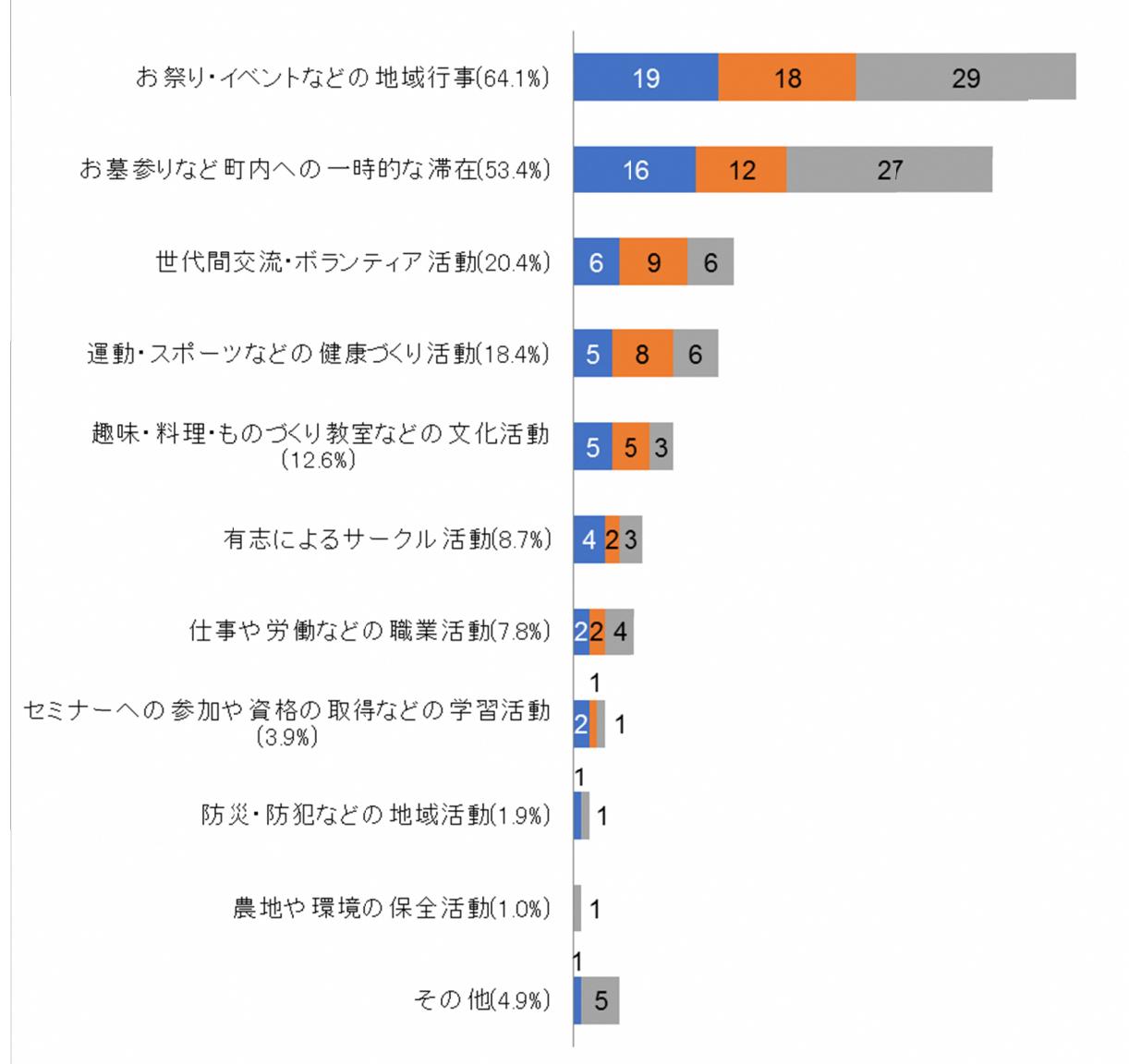
2-7. どのような形でつながりを保ちたいと思いますか。(3つまで)

※2-6. で「そう思う」を選んだ人

どのような形でつながりを保ちたいか、という質問に対して最も多かった回答は「お祭り・イベントなどの地域行事」で64.1%、次いで「お墓参りなど町内への一時的な滞在」で53.4%であった。

2-7.どのような形で「つながり」を保ちたいか(N=103)
(単位:件)

■20代(N=31) ■30代(N=30) ■40代(N=42)



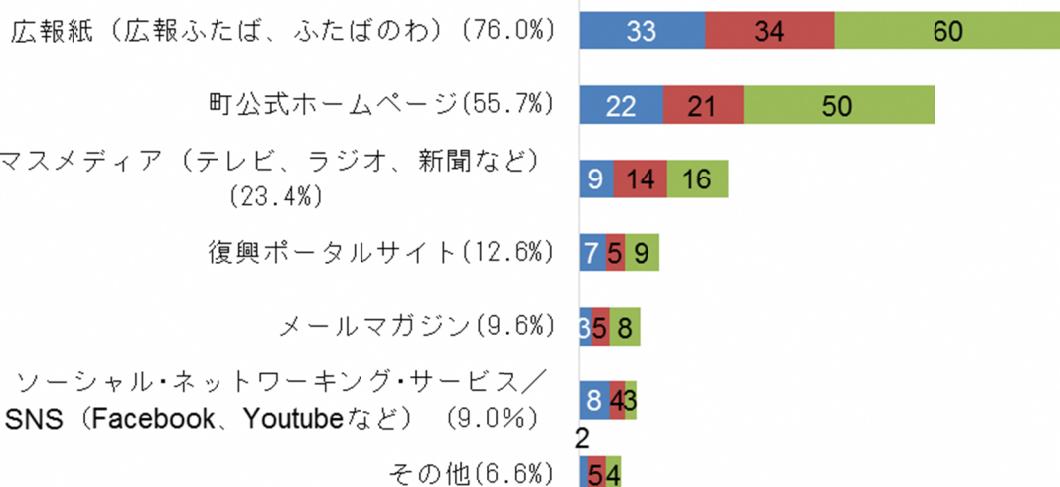
(3) 情報入手・コミュニケーション

3-1. あなたは町からの情報を主にどのような方法で入手していますか。(3つまで)

町からの情報の入手経路で最も多かったのは「広報誌（広報ふたば、ふたばのわ）」で76.0%、次いで町公式ホームページで55.7%であった。

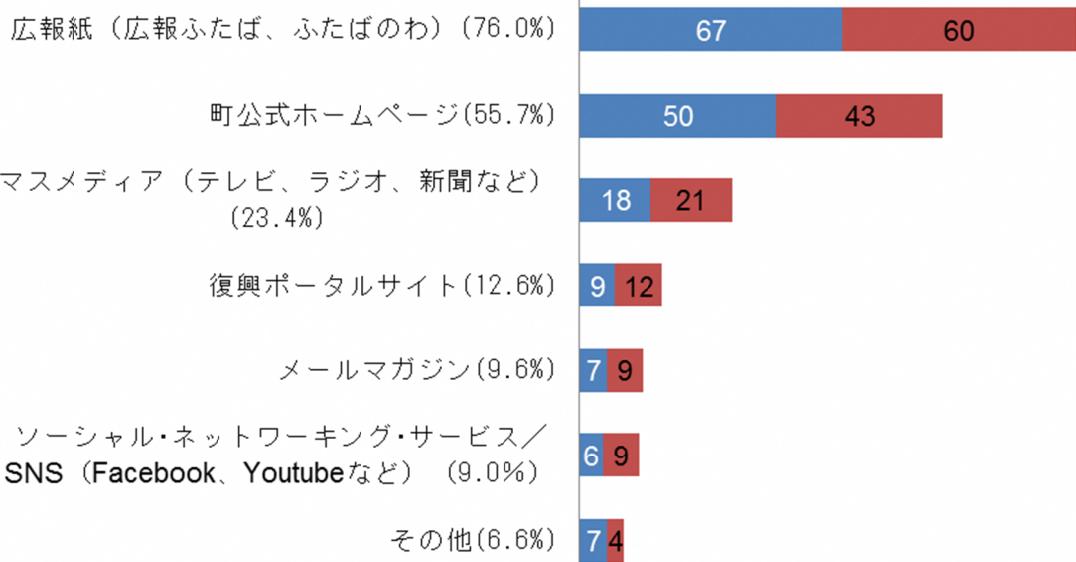
3-1.町からの情報入手経路 (N=167) (単位：件)

■ 20代 ■ 30代 ■ 40代



3-1.町からの情報入手経路 (N=167) (単位：件)

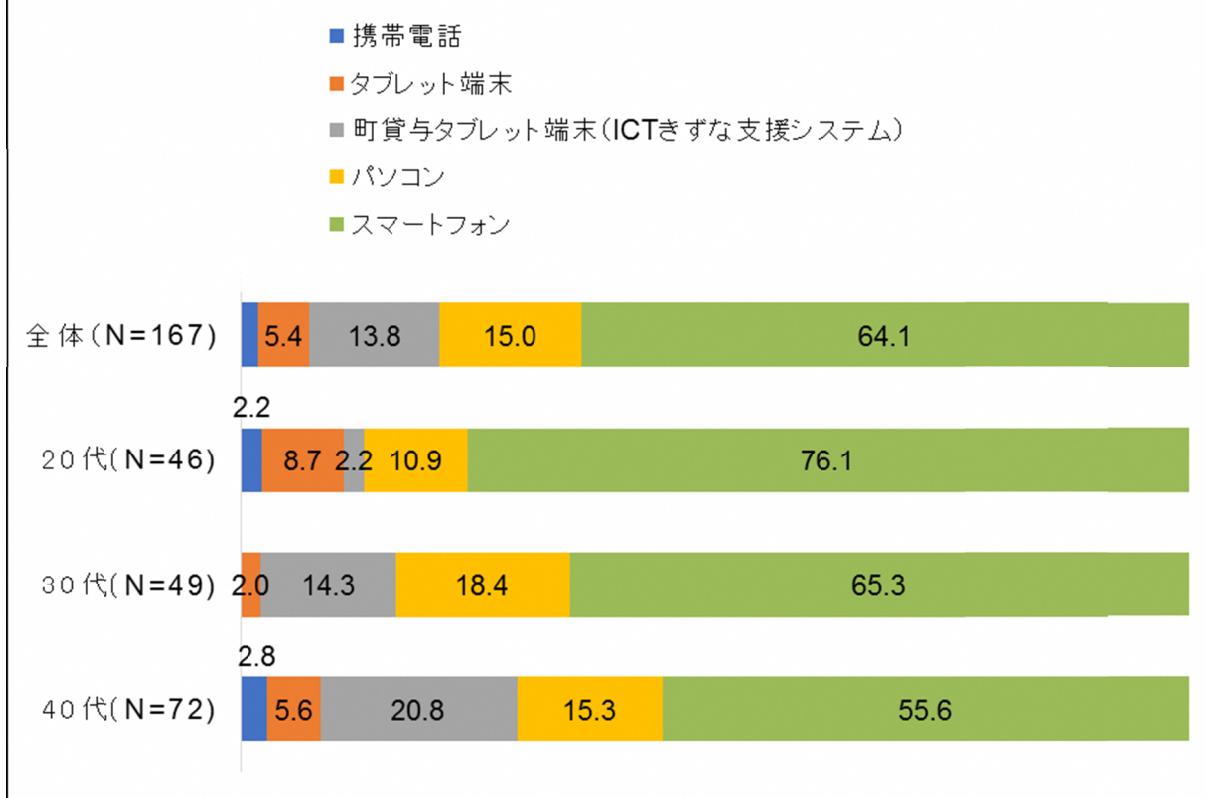
■ 男性 ■ 女性



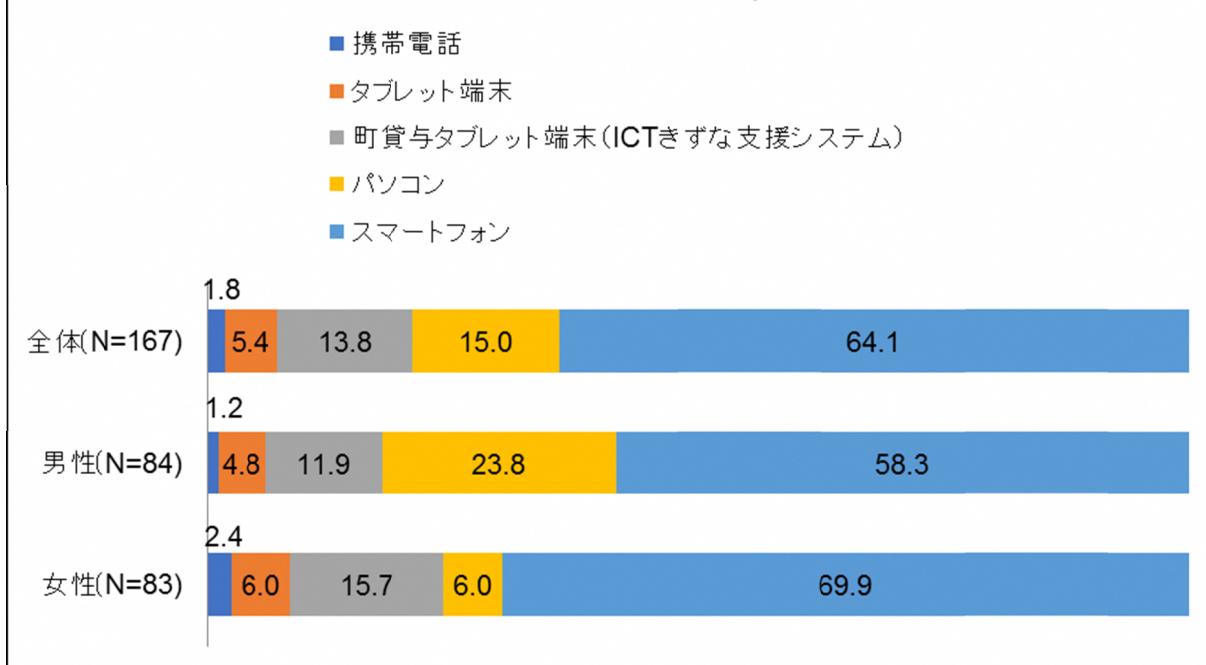
3-2. あなたは現在、主にどのような情報通信端末で情報を入手していますか。

主な情報通信端末について最も多かった回答は「スマートフォン」で 64.1%であり、次いで「パソコン」で 15.0%であった。

3-2. 主な情報通信端末(N=167)(単位: %)



3-2. 主な情報通信端末(N=167)(単位: %)



3-3. 町からの情報発信についてのご要望やご意見があればお書きください。

■ソーシャルメディアに関する意見・要望等

- ・特にsnsはもう少し工夫した発信を期待します。速効性を生かした発信を！
- ・Twitter・Facebookが、ホームページのリンク先を貼っているだけのように感じる。
- ・もう少しそれぞれのSNSの長所を活かした活用があると良いと思う。

■広報ふたばに関する意見・要望

- ・広報の文字をもう少し大きくして欲しい。
- ・広報ふたばは毎回楽しみに読んでいる。インターネットが普及した世の中だが紙面で手にとつて万人が読めるメディアとして残してほしいし、もっと紙面を増やすなど充実してほしい。役場の取り組みや営農や漁業の状況など、どこで誰が頑張っているのかわからないのは寂しいし繋がりが欲しい。

■タブレットに関する意見・要望

- ・町から貸していただいているタブレット、便利に使わせていただきありがとうございます。
- ・タブレットが無くなると困ります！

■その他

- ・若手の役場職員や夢ふたば人のメンバーなど、町に関わる若い世代を中心になって発信できる情報ツールがあるといいと思います。
- ・色々な意味での重要さが見えない。
- ・福島県外で生活している人にも役立つ情報が欲しい。例えば、求人や資格取得情報など、生活再建につながる情報が福島県外にでもあると助かる。
- ・婦人会や町でイベントを実施した報告はいらない。
- ・町の人に電話で尋ねても丁寧に対応してもらい、遠方に住んでいるのでとても感謝しています。ホームページをもっとわかりやすく、検索しやすくしてほしい。
- ・避難先で活躍している人の情報など。

(4) 復興まちづくり①

4-1. 復興のシンボルとなるもの、また特に若年層向けのイベントについてアイデアがありましたら、自由にお書きください。（企画案、開催場所等）

■ダルマ市に関するアイデア

- ・例えば、ダルマ市を主に若者を集め企画 また、フィーリングなどを企画し双葉の若者の交流
- ・ダルマ市の継続

■同窓会に関するアイデア

- ・双葉町内の学校での同窓会
- ・同級会の集い
- ・ダルマ市などには特に行きたいと思わないが、同窓会的なものがあれば参加してみたいと思う。
- ・イベントに関しては、同年代（同級生）の避難者の子供と家族が交流して、双葉町を共感するイベントがあれば良いなと思います。
- ・双葉図書館の前に埋めたタイムカプセルを開けるイベントをしてもらいたい。同級生が集まる貴重な機会になるのではないかと思う。

■ソーシャルメディアを活用する意見

- ・イベントは顔を会わせる良い機会ですが、いわきですらなかなか足が向かない。声掛け合うこともないのでSNSでもいいので知り合いと繋がることができるような仕組みが欲しいです。
- ・イベントについて町によるSNSや東京都等での交流及び交流会 又、毎月の広報に町民からの一言やメッセージを募集（HP）等から簡単に募集できるようにして、内なる思いを言葉で出すコーナーがあればと思います。

■避難先での実施を求める意見

- ・子ども世代は、双葉町で交流がほとんどありません。成人式など、避難先で出席したいです。
- ・福島県内での開催が多く、なかなか足を運ぶことが出来なかつたので、何回かに一回でも居住地近くで開催されたらと願います。
- ・帰還を検討している人達での懇親会。近い年代の人が集まって、顔見知りになり、帰還に関するイメージや心配事などを話せる場があると、より具体的に・前向きに帰還について考えられるようになると思うので。場所はいわき市が良いと思います。土地に馴染みのある人も多く交通アクセスも悪くないので。

■若い世代の意見を取り入れたイベントに関するアイデア

- ・双葉町ならではの商品を高校生など若い世代の意見を取り入れて作成する
- ・夢王国や、主催が若者で出来るイベントを作り双葉町の良い部分を考えられる物

■音楽イベントに関するアイデア

- ・音楽イベント誘致、水曜どうでしょうキャラバン開催
- ・年1回の町主催大カラオケ大会
- ・有名なアーティストのフェスティバル

■観光ツアーに関するアイデア

- ・10・20代の若年層が今の双葉を見てもらうバスツアーがいいです。
- ・展示避難指示解除後は双葉町内のスポットを決めて観光ツアーをして町民同士が交流する機会をつくる。それが双葉町を背負う若者に参加してもらう事で双葉町との繋がりを大切にする。
- ・農業・畜産業は風評被害が少なからず残ると思うので、自然との共存、または自然エネルギーを利用したもの。(例: 共存・広大な自然公園-, 自然エネルギー・電力事業-など。自然公園やテーマパークの場合、一組に1つ線量計を貸出し、「○時間いてもこの程度なんだ!」と思ってもらえば風量被害も少なくなると思います)
- ・取り組みについて: 原発の収束は現実的では無いので、原子力重大事故があった町としての宣伝。

■必要性を問う意見

- ・復興のシンボルとなるイベントとか本当に必要でしょうか? 「イベントをやりました」というやった側の満足感しか残らないのではないか?
- ・あんな所もう帰れないだろうと思うし若者を巻き込むなど強く言いたい。
- ・巻き込まないで。

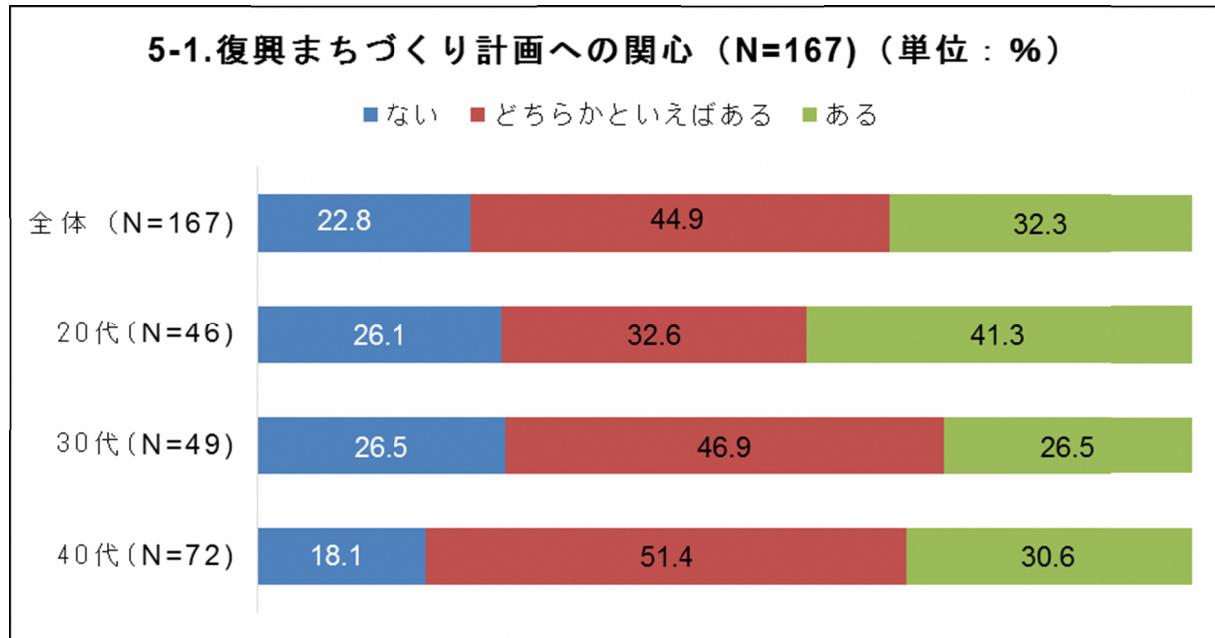
■その他

- ・十日市みたいな大きなイベントをやる。
- ・桜の木の植樹
- ・夏と冬に花火大会をやりたい。
- ・商業施設、医療、インフラが復旧するためのイベントなど
- ・解体家屋などの壇などへの思い想いのペイントを施し、それを残していくようなこと。
- ・避難指示解除前は双葉町民が未来の双葉町民に希望の想いを文にしたのを応募して、それを冊子にまとめ、双葉町で保管する。いつか双葉町図書館等が復活したら、そこで閲覧できるようになる。
- ・放射能汚染の恐怖を伝える展示物の設置
- ・町の象徴的なものは残しつつ、新たなまちづくりを! 縁起物ふたばダルマを活用した景観づくり!

(5) 復興まちづくり②

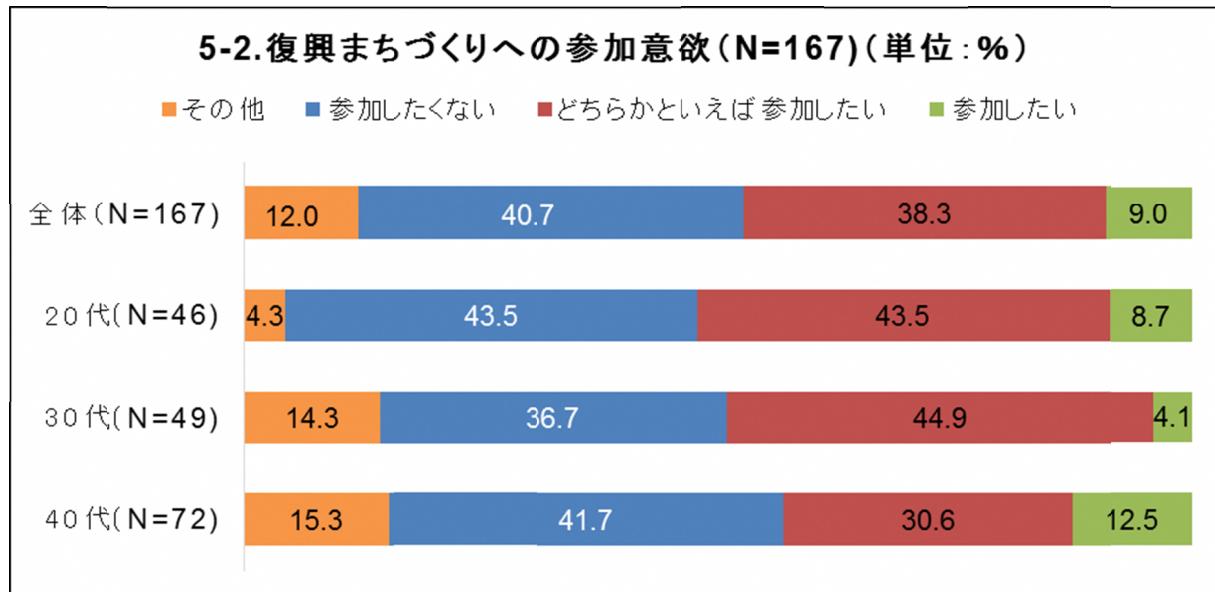
5-1. 復興まちづくり計画（町の将来）に関する関心はありますか。

復興まちづくり計画への関心については、「どちらかといえばある」が最も多く 44.9%であり、次いで「ある」で 32.3%であった。



5-2. 復興まちづくりに参加したいと考えますか。

復興まちづくりへの参加意欲について最も多かった回答は「参加したくない」で 40.7%、次いで「どちらかといえば参加したい」で 38.3%であった。



■ その他の意見

- ・自分にできることであれば、協力したいと思います。
- ・負担のない範囲で協力できるのであれば、協力したい。
- ・時間が取れれば参加したい。
- ・参加するメンバーによる。
- ・いわきが拠点なら参加は難しい。
- ・具体的に何をやるのかわからない。
- ・20年後位なら考えたい。
- ・興味があるが、今の生活が忙しくて手を出せない。
- ・仕事が忙しく時間がない。
- ・子供が小さいので難しい。
- ・気持ちはあるが、体調が悪くて無理です。
- ・参加はしないと思いますが、どうなっていくのかは見てみたい。
- ・戻らない事を決めている点で、参加は出来ないと思います。
- ・何を根拠に参加すれば良いのかなあ。

5-3. これからの双葉町はどのような「まち」になってほしいとお考えですか。

■元の町らしさを残す

- ・昔からの街並みと双葉町の名前は後世まで残したい
- ・抽象的ですが、多少の不便があっても住む人たちがそこでの暮らしを愛せる、誇らしいと思える町になってほしいです。以前の双葉町のように。
- ・充実した施設等は望まないので、震災前の懐かしいと思える町の面影が残っていてほしい。
- ・残すと言うか失った物や風景が戻ればいいと思う。水田の風景や海岸など豊かな自然の恩恵を受けていた町になるようになって欲しい。
- ・以前のように自然豊かで穏やかな方が住みやすいのではないか。けたたましく交通量が増えたり、粗暴な輩が目に付くのでは生活していくのが不安になる。
- ・元通りのコミュニティですかね。
- ・全てが新しくなってしまうのではなく、歴史や文化を大切に残していきたい。
- ・これまでどおり、互助的な精神を受け継ぐ町、特に社会的弱者に手厚い町であってほしい
- ・他の町と合併せず、「双葉町」として残って欲しい。
- ・双葉町の伝統を大切にしてほしい
- ・学校などの学びの足跡がある施設は大切に保存していただきたいです
- ・新たなものだけでなく古いものの残していくってほしいです。
- ・伝統文化、伝統芸能、料理等々、若い世代や子供たちに伝えていくことが町を忘れないことになるのでは。
- ・元の自然があるまち
- ・学校や住宅など、できるだけそのままの形で残して欲しい。住めないのであれば、せめて思い出せるように。
- ・残したいものって…何かありましたっけ？双葉町に。何もないのがいいところだったと思うんですけど。
- ・双葉町全体を残してほしい。

■新しい町・活気がある町・整備された町

- ・古き良き伝統を全くなくした、おニューな街
- ・震災前以上に、活気がある町
- ・震災前よりも商業、工業、医療、福祉が充実した町に成ってもらいたい。
- ・帰るなら利便性の高い町。帰らないならレジャー施設が整備された町。
- ・双葉郡をリードする町
- ・明るく楽しい街
- ・商業施設、インフラが整って、若い世代もまちに住んでいること。
- ・若い世代に魅力あるまち
- ・自然エネルギーを利用した自然公園やテーマパークがあり、「あそこ(双葉町)はには〇〇があるんだ！」と言える様な町になってほしい。
- ・双葉町で育ち、たくさん良いところがあったと離れてから感じています。特に人のあたたかさ

や、活性化の為にイベントなどを行っていた方々の双葉町を想う心、その良さは残しつつ、今までよりも色々な事、色々な人が行き来できるような新しい街になってほしい！

- ・以前の町民と新町民が共生する町
- ・どこにでもありそうだけどどこにもない唯一の町で、新しいけれどノスタルジーを感じられる、スペシャルだけど平凡な、そんな町になって欲しい。あと、肩肘張らない、疲れない町であつて欲しい。
- ・先端医療を備えた病院や介護施設が充実し、交通利便性や買い物に便利なショッピングモールを備えたまちづくり

■若い人・子ども・高齢者が住みやすい町

- ・子どもが安全に生活できる町
- ・若者は勿論、高齢者が住みやすいまち
- ・人と人が思いやりのある町になって欲しいまた高齢者に優しい町になって欲しい。
- ・帰還する人が少なくとも、公園やスポーツ施設など、人が交流できる温かい場所であつてほしい。
- ・戻る人、新たに双葉町に住むことになる人にとって住みやすい環境であればいいと思う。

■原子力研究施設等がある町

- ・双葉町全体を国に買い取って貰って、核の処分場または研究施設にすればいい。世界に発信できるレベルで核の減容化、除染研究、人体の影響など。
- ・研究施設やロケットや衛星の発射基地など時代の先端をゆく産業を誘致して、未来への明るい展望を抱かせるような街づくりをすれば人が自然と集まるのでは？

■震災の教訓を残す町

- ・町自体の災害地としての保存。有史以来の歴史の調査と取りまとめ。
- ・原子力災害の悲惨な状況を後世に残して欲しい。
- ・16年3月に撤去された原子力広報塔はかつて原発と町と町民が共に歩んだ町のスローガンでありシンボル的存在でした。その原子力広報塔を再び展示すれば原発事故後に「新しい価値」が生れると思っています。「負の遺産」が、いつかは「正の遺産」となり「次こそ明るい未来」を願うシンボルとして、展示を実現してほしいです。
- ・原発政策が誤りだったと世界に発信する町

■施設等の整備

- ・マリーンハウスの再建
- ・神社と遺跡
- ・一日も早く帰還できるようお願いします。また、各行政区の神社の修復も早期にお願いします。
- ・双葉町は原発立地地域として賠償金を貰っている事は世間で知っています。被害者ヅラするな、賠償金でウハウハ、事故前より高級車に乗っている人が多い、大きな家を建てている・・・。

どこに行ってもそう言われます。大半は本当の事ですが、これでは、町のイメージというより、双葉町民のイメージはいつまでも「原発事故成金」です。それを打ち消す為にも切実に過去と向き合い、原発事故が起きた事を教訓に二度と原発事故が起きないで欲しという願いを込めてあえて原子力広報塔の展示を希望します。

- ・原発事故により事故の恐ろしさを知った。そして、原発と共に舵を切った町は、廃炉の町として支える町となった。温故知新。原発事故は双葉町にとって大きなアクシデントでした。しかし、事故が起きるまでは「こんな田舎町いつか出て行ってやる」と思っていたけど、原発事故後、自分にとって大切な故郷だと気付きました。原発事故前のかけがえのない時間とその歴史は隠すのではなく、ありのままに真実を伝える意味で原子力広報塔にその想いを託して欲しいのです。その展示式が町に町民が戻った時のイベント、出発の日になれば良いなと思います。
哀しみの共感から復興へ。一歩ずつ前へ。

■再建に対する疑問等

- ・若い世代で、果たしてどのくらい戻る予定の人がいるのだろうか？友達は、みんな避難先で新居を購入している。私の知り合いは、戻らないと思う。双葉町は、なくなって欲しくないけど、戻りたいとは、思わない。
- ・ハア？？町で、考えて下さい。
- ・消えて欲しい。
- ・帰れないんだから大人しく消えて欲しい。

■その他

- ・双葉町が双葉町として未来に残せる環境
- ・「双葉町」という名前だけが残り、戻りたい人だけが戻る。このような町の在り方でも良いと思います。
- ・いつでも帰れる場所、待っていてくれる場所になってほしい。
- ・何年経っても、双葉町が大事なふるさとであることには変わりはありません。ただ、今は人が住めるような普通のまちとして機能するようには到底思えません。それでも、双葉町が町民にとって素敵な場所であるようにどうするか頑張ってくださっている方々がいることが嬉しいです。まちとしては機能しなくとも、町民が素敵に語り継ぐまちになってほしいと思います。
- ・元通りというのは無理なことで、双葉町という場所が重要だと考えています。安心安全が一番です！
- ・住みやすい双葉町、農産物の美味しい双葉町
- ・みんなが戻って、笑顔あふれるまち！スマイルタウンふたば！
- ・震災後のままで、帰還すると時間が止まっている状況なので、少しづつ復興していってほしい。
- ・早く全地区が帰還できることだけが今思うところです。
- ・迅速に復興を進めて欲しい。
- ・将来的住める地域なのかが知りたい。
- ・存在はして欲しい。

- ・心のふるさと
- ・故郷を忘れない
- ・中間貯蔵施設建設で自宅に戻れない以上、町内の他地区に戻って住むという選択は考えられない。

5-4. 町へのご要望やご意見などについてお聞かせください。

■復興・復旧について

- ・何事もスピード一貫で取り組んで欲しい。
- ・受け身ではなく、積極的な町の再生
- ・町に笑顔がある復興を目指して欲しいです。
- ・町村合併をせず、単独での維持を希望
- ・基本的にまちづくりは改善・改革があってこそ、住みよい町が形成されるとするなら、全く新しいものにして欲しい。
- ・ショッピングモールが出来て欲しい。
- ・もし、自宅の解体ができるようになれば、国の補助金で解体をして欲しい。
- ・復興の仕事の為の仮設住宅を作って欲しい。
- ・復興の計画が、町民の為で有る事を願いたい。県や国の体裁の為にも見えるし、実際何の為?と疑問の声も聞きます。若者への希望を提起するとするならば、宇宙へ飛び立った後に切り離され、役割を終えるブースターの様に有って貰いたい。職員も含め町民の何割が町の復興に希望を持っているのか分からぬが、仏作って魂入れず感が否めない。
- ・いつ、帰還ができるのか、またどこにまちの拠点をつくるのか、スケジュールを示して欲しいです。
- ・原子力発電所廃炉作業も進み、中間貯蔵施設が建設される町に小さな子供を住まわせたいとは思いません。他の市町村の帰還率を見ても今後の双葉町に希望を持つことができません。今後の復興事業に多額の費用をかける意味があるか疑問を持たざるをえません。否定的なことばかり言つて申し訳ありません。

■生活について

- ・医療費の免除、生活面のお金
- ・子どもの任意接種の助成をしてほしい。おたふくやB型肝炎など。休日診療や歯医者で子どもの医療費助成が使えない時があるので使えるようにしてほしい。
- ・避難先で復興、自立を目指す際に、詐欺に遭ったり取引先が破産されたりすると、2重被害どころではありません。そういう人を支援する補助金等があれば助かります。
- ・子育ての支援
- ・子どもを大切にしてほしい。町がどのような子育て支援をしているのかがわからない。
- ・風化しないような、取り組みやアピールをお願いしたい。
- ・元々双葉町民だった人が、住民票を戻せない点を改善してほしい。
- ・双葉町が避難解除されるまでの期間に見通しが不透明ななかで、住民票が戻せないとなると、いざ避難解除されたときに、双葉町民が少なすぎて、町として成り立たないのではないかと危惧している。

■賠償について

- ・精神的慰謝料をまだまだ帰れないのだから早く東電から払わせるべきだ。

■アンケート調査について

- ・震災から7年が経ち、今になって若者アンケート調査を実施するのはかなり遅すぎだと思います。年配の意見もたしかに大事かと思いますが、若者がいなければ町は成り立たない、次の世代に発展しないと言われてる中 現在の若者は既に生活基準の基礎が今の住んでる地域で定着してます。また、子供がいる家庭は子供優先になります。若者の意見をもっと早く取り組んで聞いてほしかったです。
- ・迷惑なハガキを送るのはやめてください。
- ・町ごっこはさっさとやめて現実みたら？
- ・本アンケートの必須入力項目で個人が特定できてしまうのはいかがなものかと思う。

■励ましの意見

- ・いつもご苦労様です。皆さんの頑張りは一町民として頭が下ります。
- ・もっと頑張！！
- ・避難している町民のために役場の方皆さん頑張っている。きめ細やかに情報をいただいたら、連絡して頂ければありがとうございます。
- ・役場職員の皆様へ。震災時の避難の時は大変お世話になりました。あなた方のおかげで避難先でも双葉町民として生活することができます。自分自身、交通事故やケガをしないように、帰還に向けて考えております。皆様もお体ご自愛下さい。
- ・大変ですが共に頑張りましょう
- ・がんばっていきましょう
- ・町長さん、職員の皆様、お疲れ様です。日々の業務お忙しいと思いますが、お体に気をつけてくださいね。

■その他

- ・出身地を言うのが恥ずかしい事態にさえならなければいいです。
- ・復興よりも記憶。
- ・帰還しようとするなんて、狂ってる。

6. 今後の町からの情報提供について

今後、イベント・町の施策に関する情報や意見交換会（町民ワークショップ、個別ヒアリング）等に関する情報提供をさせていただきますので、よろしければ、ご連絡先を教えてください。（回答は任意です。）

心ばかりですが、ご登録いただいたメールアドレスへパソコンや携帯電話・スマートフォンでお使いいただける壁紙をお送りさせていただきます。

※個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

6-1. メールアドレス ()

⇒ 3 6 件回答

6-2. 氏名 ()

⇒ 3 3 件回答

資料編

■双葉町復興まちづくり若者アンケート調査

本調査は、20～40代の町民の皆さまの現状や帰還意向などについての考え方を把握するとともに、町へのご意見やご要望などをお伺いする調査となっております。

本調査で皆さまからいただいた情報や貴重なご意見やご要望は、今後の施策を進めるための資料として活用させていただきます。多くの町民の皆さまの声を反映した復興まちづくりが進められるよう、本調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

1. はじめに、ご回答いただくあなたご自身のことについて教えてください。

1－1. 性別

- 男性
- 女性

1－2. 年齢（平成30年4月1日現在の年齢でお答えください。）

- 20～24歳
- 25～29歳
- 30～34歳
- 35～39歳
- 40～44歳
- 45～49歳

1－3. 現在のあなたの職業（就業形態）を教えてください。

※2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

- 自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）
- 自営業・会社経営者（休業中）
- 会社員（勤め人）
- 団体職員
- 公務員
- パート・アルバイト
- 学生
- 無職（職を探していない）
- 無職（職を探している）

1－4．震災発生時にお住まいだった行政区を教えてください。

※わからない場合は、その他に住所を記載してください。

- 新山
- 下条
- 郡山
- 細谷
- 三字
- 山田
- 石熊
- 長塚一
- 長塚二
- 下長塚
- 羽鳥
- 寺松
- 渋川
- 鴻草
- 中田
- 両竹
- 浜野
- その他 (_____)

1－5．あなたが現在避難されている市区町村を教えてください。

- 福島県内（浜通り）
- 福島県内（中通り）
- 福島県内（会津）
- 福島県外

1－5－1．その避難先の市区町村名を教えてください。

- (_____)

1－6．あなたの関心がある情報は何ですか。

※特に知りたい、関心がある情報を3つ選んでください。

- 住宅・暮らしの情報
- 健康・医療・福祉関連情報
- 子育て・教育関連情報
- イベント・交流会に関する情報
- 雇用・就労・就農関連情報
- 復興まちづくり関連情報（交通・通信インフラ関連）

- 復興まちづくり関連情報（生活サービス関連）
- 放射線量・除染情報
- 原子力損害賠償関連情報
- 原子力発電所関連情報
- 中間貯蔵施設関連情報
- その他（_____）

2. あなた自身の帰還に関するご意向についてお聞かせください。

※ここでの帰還とは、町内に定住または町内との二地域居住することを意味します。

【参考：町の動き】

町では、帰還困難区域内に「特定復興再生拠点区域」を設け、平成34年（2022年）春頃までの避難指示を解除し居住を可能とすることを目指す「特定復興再生拠点区域復興再生計画」を策定し、帰還環境整備に向けた除染・インフラ整備等に取り組んでいます。

■双葉町・特定復興再生拠点復興再生計画について

<http://www.futaba-fukkou.jp/archives/1373>

2-1. 将来、双葉町の避難指示が解除された後の帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

- 解除から概ね5年以内に戻りたいと考えている
- 将来的に戻りたいと考えている
- まだ判断がつかない
- 戻らないと決めている

（2-1で、「解除から概ね5年以内に戻りたいと考えている」「将来的に戻りたいと考えている」と回答した方）

2-2. 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。

- 家族全員での帰還を考えている
- 家族一部での帰還を考えている
- 現在検討しているところ
- まだわからない

（2-1で、「解除から概ね5年以内に戻りたいと考えている」「将来的に戻りたいと考えている」と回答した方）

2-3. 帰還する場合、または双葉町へ戻ることを判断するためにどのような支援や情報が特に必要と考えますか（3つまで）。

※特に必要と考える支援や情報を3つ選んでください。

- 除染（被ばく低減）に関すること
- 住宅支援に関すること
- 商業施設などの生活利便性に関すること
- 窓口サービスなどの役場機能に関すること
- 地域のきずな維持やコミュニティへの支援に関すること
- 避難されている家族の一時宿泊に関すること
- 医療・介護・福祉に関すること
- 放射線の影響など健康に関すること
- 学校・教育・子育てに関すること
- 交通・通信などインフラ整備に関すること
- 雇用確保・就業支援に関すること
- 原子力発電所の廃炉や中間貯蔵施設に関すること
- その他（_____）

（2－1で、「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方）

2－4．現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（いくつでも）

- 放射線量が低下せず不安だから
- 原子力発電所の安全性に不安があるから
- 中間貯蔵施設の安全性に不安があるから
- 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
- 双葉町に戻っても仕事がなさそうだから
- 双葉町での事業の再開が難しいから
- 営農などができそうにないから
- 家が汚損・劣化し、住める状況にないから
- 双葉町外への移動交通が不便だから
- 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
- 医療環境に不安があるから
- 介護・福祉サービスに不安があるから
- 教育環境に不安があるから
- 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
- 避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから
- 避難先の住居（持ち家以外）を生活拠点とし、将来も継続的に居住する予定だから
- 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
- 他の住民も戻りそうにないから
- 今後も津波被害を受ける可能性があるから
- 帰還までに時間がかかりそうだから
- 避難先で仕事を見つけているから
- 今の環境で子どもの教育を継続させたいから

- 避難先の方が生活利便性が高いから
- その他（_____）

(2-1で、「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方)

2-5. 帰還しない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(いくつでも)

- 継続的な健康管理の支援
- 雇用確保の支援
- 町からの継続的な情報提供
- 一時帰宅支援
- その他（_____）

(2-1で、「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方)

2-6. 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。

- そう思う
- そう思わない
- その他（_____）

(2-6で、「そう思う」と回答した方)

2-7. どのような形でつながりを保ちたいと思いますか。

※当てはまるものを3つまで選んでください

- お祭り・イベントなどの地域行事
- 運動・スポーツなどの健康づくり活動
- 世代間交流・ボランティア活動
- 農地や環境の保全活動
- 有志によるサークル活動
- 仕事や労働などの職業活動
- 趣味・料理・ものづくり教室などの文化活動
- 防災・防犯などの地域活動
- セミナーへの参加や資格の取得などの学習活動
- お墓参りなど町内への一時的な滞在
- その他:（_____）

3. 町からの情報入手に関する状況についてお聞かせください。

3-1. あなたは町からの情報を主にどのような方法で入手していますか。

※主な入手方法を3つ選んでください。

- 広報紙（広報ふたば、ふたばのわ）
- 町公式ホームページ
- 復興ポータルサイト
- SNS（Facebook, Youtubeなど）
- メールマガジン
- マスメディア（テレビ、ラジオ、新聞など）
- その他（_____）

3-2. あなたは現在、どのような情報通信端末で情報を入手していますか。

- パソコン
- タブレット端末
- 町貸与タブレット端末（ICT きずな支援システム）
- スマートフォン
- 携帯電話
- その他（_____）

3-3. 町からの情報発信に関してのご要望やご意見があればお書きください。

- （_____）

4. 復興のシンボルやイベントについてのアイデア

4-1. 復興のシンボルとなるもの、また特に若年層向けのイベントについてアイデアがありましたら、自由にお書きください。（企画案、開催場所等）

- （_____）

5. 双葉町への要望・意見について

【参考：町の動き】

平成28年12月双葉町復興まちづくり計画（第二次）を策定し、6つの将来像（①町民のきずなを繋げるまち ②ふるさと双葉町の記憶を次世代に引き継ぐまち ③新たにみんなでつくりあげる魅力的なまち ④新たな産業を創出し継続的な雇用を生み出すまち ⑤次世代の双葉町を担い世界に貢献する人材を育てるまち ⑥災害を克服し安全・安心に暮らせるまち）を掲げ、町の再興に全力で取り組んでいます。

■双葉町復興まちづくり計画（第二次）について

<http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/5466.htm>

5-1. 復興まちづくり計画（町の将来）に关心はありますか。

- ある
- どちらかといえばある
- ない

5-2. 復興まちづくりに参加したいと考えますか。

- 参加したい
- どちらかといえば参加したい
- 参加したくない
- その他:(_____)

5-3. これからの双葉町はどのような「まち」になってほしいとお考えですか。

※残してほしい（残したい）もの、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

(_____)

5-4. 町へのご要望やご意見などについてお聞かせください。

(_____)

6. 今後の町からの情報提供について

今後、イベント・町の施策に関する情報や意見交換会（町民ワークショップ、個別ヒアリング）等に関する情報提供をさせていただきますので、よろしければ、ご連絡先を教えてください。（回答は任意です。）

心ばかりですが、ご登録いただいたメールアドレスへパソコンや携帯電話・スマートフォンでお使いいただける壁紙をお送りさせていただきます。

※個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

6-1. メールアドレス

(_____)

6-2. 氏名

(_____)